

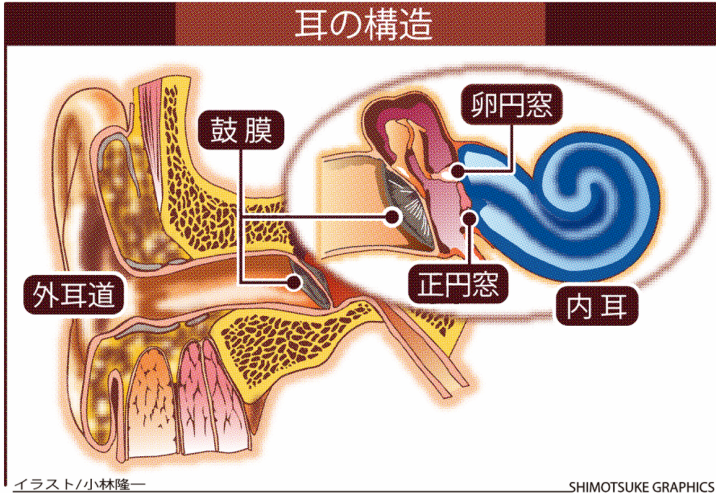
獨協医大「耳の日」前に忠告 深美准教授

家族と話しながらソファで。ペットがいるリビングで。普段、軽い気持ちで耳かきをしていないだろうか。耳かき棒や綿棒などが耳の奥に刺さると、めまいや難聴といった重篤な症状を招く「外傷性外リンパ瘻」になってしまう。3月3日の耳の日を前に、獨協医大耳鼻咽喉科頭頸部外科の深美准教授は「日常的な行為に大きな危険があることを再認識してほしい」と注意を呼び掛ける。

外リンパ瘻は、鼓膜の内側にある内耳の二つの窓(卵円窓、正円窓)が破れ、中のリンパ液が出てしまう病気。内耳は「平衡機能」と「聞こえ」の作用をつかさどるため、損傷すると、めまいや進行性難聴が引き起こされる。

「耳かき」細心の注意必要

耳の穴の入り口から鼓膜までの外耳道は約3センチ。入り口付近は毛が生えた軟骨部で、鼓膜近くになると薄皮の骨部となる。骨部は非常に痛みを感じる部分なので、自分の力で耳かき棒を奥まで入れることは通常ありえないが、他人の肘がぶつかったり、猫に飛びか



「耳かきは安全な場所」とアドバイスする深美准教授

いが、他人の肘がぶつかったり、猫に飛びか

内耳の窓破ると難聴にも

かられたりして奥まで刺さってしまうケースが後を絶たないという。

深美准教授は「耳を掃除することは必要だが、安易にやり過ぎている。周囲の安全を十分に確認し、集中してやってほしい」と強調

3月3日に
医師無料相談
東武宇都宮百貨店
日本耳鼻咽喉科学会
県地方部会は「耳の日」
の3月3日午前11時〜
午後4時(受け付けは
3時半まで)、宇都宮
市宮園町の東武宇都宮

する。

鼓膜が破れただけなら自然に治ることが多いが、卵円窓や正円窓が破れたら手術が必要となる。「耳かき後、キーンという強い耳鳴りやめまい感が続いたら、早めに受診してほしい」と深美准教授。内耳の状態が悪化すると、手術しても治らなくなる。

このほか、強く鼻をかみすぎたり、くしゃみを中途半端に我慢したりすることにも注意が必要。内耳に負荷がかかって外リンパ瘻になることもあるという。(萩原恵美子)

百貨店4階駐車場入り口で無料相談を行う。
相談医は、佐野厚生
総合病院の高橋瑞乃
医師、自治医大の石川
浩太郎医師、獨協医大
の金谷洋明医師。相談
内容に関する資料など
があると望ましいとい
う。